

『持留川の環境を調査』

10月26日・11月15日の2日間、くいの松原ネイチャーゲームの会（会長；中山美幸さん）が環境保全事業（全国モーターボート競走施行者協議会助成）として持留川の水質と川の生き物調査を実施し、鹿児島県地球温暖化防止センター所長の清水建司理学博士と自然体験活動指導者の指導のもと、延べ60人の子ども達が参加しました。

子ども達は、水の中に棲む昆虫による水環境の汚染状況調査（水質、流速、底質）や、パルクトテスト（試薬）による水の汚れを示す指標（COD）など、計8種類の調査を実施し、目ではきれいに見えた中山橋（水源地付近）でも、かすかではあるが汚染されつつあることや、大崎大橋下では汚いところに棲むヒル、イトミミズ、ユスリカなどが生息していることに驚いていました。

会では、年間を通し子ども達と調査を重ね、3月に調査結果をまとめ公表する予定にしている、地域住民の参加も歓迎しますとのことでした。



『キャベツの出荷！第一便が出発！』

12月10日(水)、片平農産において大崎町キャベツ出荷組合（片平正春組合長）のキャベツ出発式が行われました。

同組合は、商品性の向上を第一に考え、4法人（有田農産(有)・(有)片平農産・(有)富士農園・(有)南九州農園）1個人（白寒水元喜しらそうすさん）が設立し、東北・関東・関西・四国・九州地区に出荷販売を行います。

出発式で組合長の片平さんが「安心・安全なキャベツを消費者の皆さんに安定供給できるように、組合員一丸となり取り組んでいきたい。」と話されると、同組合のイメージキャラクター『おおさきキャベちゃん』が描かれた出荷トラックの第一便が「頑張ろう！」の掛け声で出発しました。

『我が家にサンタさんがやってきた！』

12月24日(水)、毎年恒例となっている『クリスマス大作戦』が実行されました。

これを行っているのは、大崎町青年団（児玉礼人会長・会員16名）で、子ども達の一夜の夢をかなえようと、事前に保護者から預かったプレゼントを、青年団扮するサンタクロースが親に代わって手渡すというものです。

何も知らない子ども達は、サンタさんの突然の訪問に驚きながらも、たいへん喜んだ様子でプレゼントを受け取っていました。団長の児玉さんは「子ども達の喜ぶ表情を見ると、こっちも楽しく活動ができます。団員も毎年楽しみにしている活動のひとつで、これからも続けていきたいと思えます。」と話されました。

